

夢洲へ地下鉄延伸

万博誘致構想 原案

知事示す

2025年の国際博覧会（万博）開催を目指す松井一郎知事が16日、経済産業、厚生労働両省に誘致構想の原案を示した。会場候補地を大阪湾の人工島「夢洲」（大阪市此花区）としたうえで、市営地下鉄中央線の延伸などアクセス改善策にも触れている。

原案では、夢洲について「神戸、京都など各都市からのアクセス面の利便性が高い」と指摘。利用可能面積を160万坪程度とした。

課題となるのは、鉄道のない夢洲へのアクセス。シヤトルバスや船の活用のほか、地下鉄延伸を盛り込んだ。大阪府市は14年、夢洲への統合型リゾート（IR）誘致を想定し、三つの

鉄道延伸案を発表したが、地下鉄中央線は整備費が約540億円で3案の中で最も安上がりだった。松井氏は記者団に「コスト的に考えると、中央線延伸が現実的な選択肢」と語った。

原案では「参加・体験」型の万博もろかった。衣食住の最新技術を生かした「滞在型究極健康ハウス」に一定の日数滞在してもらったり、ウェアラブル端末を身につけて健康状態を測定しながら「健康スマートタウン」を周遊したりする計画を例示した。参加は150カ国・機関、来場者は3千万人が目標。医療分野の市場拡大などによる全国での経済波及効果は6兆円と試算した。

（上田真由美）